

令和6年度 第78回卒業証書授与式 学校長式辞

日一日と日ざしの暖かさが増し、春の息吹を感じられる季節となりました。

今日のよき日に第78回卒業証書授与式を挙行了しましたところ、ご来賓の皆様におかれましては、公私何かとご多用の中、ご臨席を賜り、卒業生の門出をお祝いいただき誠にありがとうございます。高いところからではございますが、心よりお礼申しあげます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうでございます。立派に成長され、未来にむけて着実に歩もうとするお子さまの姿に、喜びもひとしおであろうと思います。また、今日まで本校の教育活動に寄せられました温かいご理解とご協力に対し、心からお礼を申しあげます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。卒業証書を受け取り、三年間のさまざまな出来事が思い出されていることと思います。

仲間と共に学んだこと、心や体を鍛えたこと、時には笑い、また時には涙を流したこと、文化祭や体育大会などの行事に一生懸命取り組み、困難を乗り越えて大きな感動を味わったことなど、そんなたくさんの経験を皆さんは重ねてきました。3年間のそんな素晴らしい経験は、皆さんを大きく成長させたことと思います。どうかその経験を生かして、これからの人生を、しっかりと歩んでください。

皆さんはこれから、それぞれ、進んでいく道が違います。道は違いますが、皆さん一人一人が、これからの時代を担う人材になってくれることを期待しています。

そんな皆さんの卒業にあたり、二つのメッセージを贈りたいと思います。

一つ目は、「人との出会いを大切にしてほしい」ということです。

これからみなさんは、いろいろな人との出会いがあります。「ある人と出会ったことで、人生が変わった」ということがあります。柔軟な感性を持っている今の時期に、自分とは異なる立場や境遇の人との出会いは、皆さん自身の人生に、新しい価値観や考え方をもたらせてくれます。また、自分の中に隠れている新たな素質が引き出される機会ともなります。

『人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎない時に』 これは、教育学者 森 信三 さんの言葉です。

この言葉どおり、人との出会いは必然です。これから、どんな出会いも大切にしてください。出会いは人の心を広げてくれます。幸せとは、人との出会いの中に訪れるものなのです。

二つ目は、「夢や目標を持ち続けてほしい」ということです。

現在の社会は、激しい変化が起こり、これまでの常識が覆されることが起きるブーカ時代といわれており、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状況であるといわれています。そんな社会を皆さんは、生き抜いていかなければなりません。そのためには、自分はどこへ進めばよいのか、それを指し示す正確な羅針盤を備えておく必要があります。その羅針盤となるものは、夢や目標ではないでしょうか。

今、皆さんは、将来に向けての夢や目標を持っていることと思います。それをもち続けてください。社会の流れによっては、夢や目標が変化することもあるかもしれません。大切なのは、人生のどの瞬間でも夢や目標をもって生きていくということです。

昨年発行された新一万円札の肖像画の人物であり「日本資本主義の父」とも称される渋沢栄一さんの残した言葉に『夢七訓（ゆめしちくん）』があります。

そこには、「夢」を持つことが、大切である理由が示されています。

「夢なき者は理想なし、理想なき者は信念なし、信念なき者は計画なし、計画なき者は実行なし、実行なき者は成果なし、成果なき者は幸福なし、故に幸福を求める者は夢なかるべからず」

これは、「夢がなくては、理想も、実行も、その成果もなく、そして幸福もない。幸せを求めるなら、夢を持つこと。」という教えです。

これから、皆さんの進む道は、平坦な道ばかりではありません。いくつかの試練に出くわすこともあるでしょう。しかし、それは皆さんが越えられるからこそ出会う試練です。夢に向かい、理想を高くもち、それに向かって自分の道を一步一步進んでいってください。

結びになりますが、本日はご多用な中、ご臨席を賜りましたご来賓、保護者の皆様には、心より感謝とお礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育活動に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

七十八期卒業生252名の皆さんの、輝かしい未来に幸多きことを祈念し、式辞といたします。

令和7年3月14日

大阪市立茨田中学校長 齋藤 慶二